

鉄道総研 熊谷則道理事長がフランス国鉄総裁と共同研究に関する

トップミーティングを行いました

2018年10月29日

公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）熊谷則道 理事長がフランス国鉄（SNCF）本社にて、ギヨーム・ペピ フランス国鉄総裁および技術系役員と共同研究に関するトップミーティングを行いました。

【日仏共同研究トップミーティング】

日 時： 2018年10月18日（木） 14時～14時40分

場 所： フランス国鉄本社（サン・ドニ）

会談者：

鉄道総研 熊谷則道理事長

フランス国鉄 Guillaume PEPY（ギヨーム・ペピ）総裁

同席者：

鉄道総研 久保俊一理事

フランス国鉄 Pierre IZARD（ピエール・イザール）副総裁 C T O（技術総括役員）

David LEBORGNE（ダビッド・ルボルニュ）C D O（デジタル化総括役員）

Carole DESNOST（キャロル・デノー）研究革新局長

鉄道総研は1995年にフランス国鉄と共同研究等に関する協定を結び、23年間にわたり各技術分野で共同研究を進めています。本ミーティングはペピ総裁、熊谷理事長の挨拶にはじまり、鉄道総研及びフランス国鉄が共同研究の優先課題と位置付ける自律運転、自然災害対応、省エネルギー及びヒューマンファクターに関わる研究開発の内容と進め方に関し意見交換が行われました。フランス国鉄ではTECH4RAILと呼ぶデジタル化プロジェクトを進めており、鉄道総研のICT推進プロジェクトとも課題を共有することが必要であること、さらに相互に社員を派遣して人的ネットワークを深めることを双方が確認しました。また、来年日本で開催される世界鉄道研究会議（WCRR2019）にも話題が及びました。

熊谷理事長挨拶要旨：

共同研究をはじめて23年が経過し、緊密な核心を突いた議論ができています。ともに鉄道の最先端を走る立場として技術に関して意見交換ができることは大変有意義である。フランス国鉄が新技術に対してアクティブに対応していることに敬意を表す。ペピ総裁の技術力を重視する姿勢に感服する。両者の鉄道文化は異なるものの、安全性向上、デジタル化、自然災害対応では互いの知識と経験を共有していきたい。

ペピ総裁挨拶要旨：

鉄道総研と共同研究できていることをうれしく思う。テーマを深く掘り下げ、互いに学びあえると良い。日本を訪問した社員は日本の鉄道に感銘して帰ってくる。当社ではドア・ツー・ドア、モビリティを革新する長期的な取り組みを行っている。出来上がった解決策はないので、一緒に作っていく必要がある。鉄道業界は、まず技術が最初にあり、そこにイノベーションが生まれる。その先にはお客様がいるが、まず技術が一番大事である。



日仏共同研究に関するトップミーティング
熊谷理事長（円卓奥左から3人目）、ペピ総裁（円卓右1人目）



ペピ総裁（左）と握手する熊谷理事長（右）